

MYOKO SKOOL vol.7

喪服のテルプシコラー

越智雄磨さん(東京都立大学准教授/舞台芸術研究、身体論)と企画するダンスイベント「MYOKO SKOOL」。シリーズ7年目の今回は、世界的な注目を集める新進気鋭のダンサー・中間アヤカさんの招聘が実現しました。全6日間の日程で、公募キャストとともに妙高で創作するダンス作品「喪服のテルプシコラー」(仮題)を上演します。

終演後に中間アヤカさんと越智雄磨さんによるポスト・パフォーマンス・トークを併せて開催。

† 日時 令和6年9月22日(日)14時開演

※開場は開演の20分前

† 会場 妙高市文化ホール

※公演当日の入場口は、公演前日までに公式ウェブサイトとSNSにてお知らせいたします

† チケット

発売日 8月10日(土)10:00~

入場料 1,000円(全席自由)

お取り扱い 妙高市文化ホール窓口(8:30-17:00)

予約フォーム(当日精算)はQRコードから



予約フォーム



©Bea Borgers

中間アヤカ(Ayaka Nakama)

別府生まれ、神戸在住。

英国ランベール・スクールでバレエとコンテンポラリーダンスを学んだ後、文化庁・NPO法人DANCE BOX主催「国内ダンス留学@神戸」1期に奨学生として参加。これまでに黒沢美香、contact Gonzo、チェルフィツチュ等の作品に出演。ダンサーとしてキャリアを始め、近年は自身の作品創作に積極的に取り組んでいる。「鑑賞」を超える「体験」として、観客の身体の記憶に結びつくような複雑な要素を用いる多孔的な作品が特徴。「ダンスとしか呼ぶことのできない現象」を追い求め、それが現れる瞬間を他者と共有するための「仕掛け」を創り出すことに挑戦している。第16回神戸長田文化奨励賞受賞。セゾン文化財団2024年度セゾン・フェロー。



越智雄磨(Yuma Ochi)

東京都立大学人文社会学部准教授(舞台芸術研究、身体論)。日本学術振興会特別研究員などを経て現職。早稲田大学坪内博士記念演劇博物館においてコンテンポラリーダンスをテーマとした展覧会「Who Dance? 振付のアクチュアリティ」のキュレーションを担当するほか、妙高文化ホールで毎年実施されているダンス企画MYOKO SKOOLの企画に関わる。著書に『コンテンポラリー・ダンスの現在 ノン・ダンス以後の地平』(国書刊行会、2020年)、共著に『アンチ・ダンス 無為のコレオグラフィ』(水声社、2024年)、論文に「Antibodyとしてのダンス、コンタクト・ゴンゾ『訓練されていない素人のための振付コンセプト』3部作を巡って」などがある。

「私たちは、この身体で必死に産んだダンスの死をどのように送ってあげられるのでしょうか？」